

# 研修ポイント制度におけるカリキュラム

領域	科目	到達目標(行動目標)	含むべき事項(例)	(参考キーワード)
1. 職業倫理と社会制度に関する領域	①福祉用具専門相談員の役割と職業倫理	利用者の尊厳を支える専門職として、倫理と責務に基づいて行動できる。	福祉用具専門相談員の役割	介護保険制度を担う専門職の一員、キャリアパス、資格要件
			職業倫理	人権擁護、法令順守、秘密保持義務、接遇・マナー、福祉用具貸与・販売事業の基本方針、福祉用具の研究開発・普及の促進
	②高齢者・障害者の保健・福祉に関連した法律・制度	介護保険をはじめとした法律・制度の目的としくみを理解し、担い手の一員としての自覚を持って業務を行える。	社会福祉	社会保障制度
			高齢者福祉	老人福祉法、高齢者の医療の確保に関する法律
			介護保険制度の考え方としくみ	介護保険法、介護保険制度の目的・しくみ、介護サービスの種類と内容、地域包括ケアシステム
			障害者自立支援制度の考え方としくみ	障害者自立支援法、障害者自立支援制度の目的・しくみ、
			個人の権利を守る制度の考え方としくみ	個人情報保護法、成年後見制度、消費者保護法、高齢者虐待防止法
			保健医療福祉に関する制度の考え方としくみ	高齢者保健医療制度、生活保護制度
	③福祉用具の意義と供給のしくみ	福祉用具の意味と、介護保険制度・障害者自立支援制度における位置づけ、福祉用具供給のしくみを理解し、利用者・家族に正確に説明できる。	福祉用具の定義	福祉用具、共用品、福祉用具分類、標準化、医療機器との違い
			介護保険制度における福祉用具	介護保険制度における福祉用具の定義、(介護予防)福祉用具貸与、特定(介護予防)福祉用具販売、住宅改修、給付範囲、告示と解釈通知
			障害者自立支援制度における福祉用具	補装具、日常生活用具給付等事業、日常生活用具
			福祉用具の役割	身体機能の補完・代償、自立度の向上、介護の軽減・省力化、オーファンプロダクト、ユニバーサルデザイン
福祉用具供給のしくみ			福祉用具供給プロセス、福祉用具の研究開発及び普及の促進に関する法律、消費者契約法、市場動向、在庫管理	
④介護サービスにおける視点	自立支援や介護予防、ケアマネジメントの考え方に基づいて、利用者の生活の質の向上に資するサービスを提供できる。	介護の目的、機能、基本原則	人権と尊厳の保持、QOL、ノーマライゼーション、自立支援、自己決定・自己選択、利用者主体、潜在能力の活用、介護予防、生活機能の向上	
		ケアマネジメントの考え方	ケアマネジメントの目的、ケアマネジメントの過程、ニーズ、アセスメント、ケアプラン、チームアプローチ、エンパワメント	
2. 利用者の生活・介護・医療に関する領域	①生活の理解と支援	生活の個性を踏まえ、各利用者の日常生活活動や基本動作の特徴を把握することができる。	高齢者等の暮らし	生活の個性、生活をみる、生活リズム、生活習慣、社会活動・余暇活動
			家族や地域の役割	家族の役割、家族形態、家族観の多様化、コミュニティ、都市化、過疎化、町会・自治会、民生委員
			日常生活活動(ADL)	日常生活活動(食事、排泄、更衣、整容、入浴、移動・移乗、コミュニケーション)の意義、内容、動作要素
			生活における基本動作	動作の仕組み(重心、支持基底面、重心線)、基本動作の種類(寝返り、起き上がり、座位、立ち上がり、座り、立位、またぎ、歩行、階段昇降)
	②からだところの理解	人体の基本構造と高齢者等の心身の特徴を理解し、治療・生活上の留意点への配慮ができる。	人体の基本構造	各器官系に関する基礎知識(骨格系等)、バイタルサイン(体温、呼吸、脈拍、血圧)
			老化に伴う心身の変化	老年期の心身機能の変化、心理を理解する基本的視点(生涯発達、適応、個性、喪失感)、老年期の日常生活上の留意点
			高齢者の疾病	主な疾病の種類、薬の効能と副作用
			ICF(国際生活機能分類)の考え方	生活機能、機能障害、活動制限、参加制約、健康状態、環境因子、個人因子
			障害に伴う心身の特徴	障害の種類と特性、障害のある人の心理(障害の受容、適応)、障害に伴う心身機能の変化
	③介護技術	生活場面ごとの基本的な介護技術の意味と手順を理解し、福祉用具の活用に展開できる。	生活場面ごとの介護技術	食事、排泄、更衣、整容、入浴、移動・移乗、コミュニケーション等に関連する介護技術
			終末期の介護	ターミナルケア、看取り、緩和ケア、快適・安楽な環境づくり、家族への配慮
			介助者の負担軽減	腰痛予防、ボディメカニクス
	④リハビリテーションに関する知識	リハビリテーションの考え方と専門職の役割を理解し、リハビリテーションにおける福祉用具の活用の視点を持って連携することができる。	リハビリテーションの概要	リハビリテーションの考え方、種類(医学的、教育、職業、社会、地域)、機能訓練、関節可動域
			リハビリテーション専門職との連携	OT/PT/STとの連携
	⑤認知症の理解	認知症による症状と行動を踏まえ、安心・安全の確保と生活機能の発揮につながる福祉用具の活用に展開できる。	認知症の概念	認知症の定義、原因疾患、中核症状、周辺症状(BPSD)、認知的世界の理解
			生活行為の特徴と対応	認知症ケアの視点(パーソンセンタードケア)、変化や刺激の少ない環境づくり、徘徊・失禁・不潔行為・火の不始末等への対応と事故防止
	⑥住環境に関する知識	利用者の自立支援と介護負担の軽減のため、住環境の特性に基づき、福祉用具と連携しながら効果的な住環境の整備を行うことができる。	住環境の特性	住宅構造、間取り、所有形態、設備、ライフスタイル
			介護保険制度における住宅改修	住宅改修の範囲
住まいの整備のための基本技術			段差、手すり、建具、幅・スペース、家具・収納、色彩・照明・インテリア、冷暖房、非常時の対応、維持管理	
3. コミュニケーションに関する領域	①コミュニケーション	サービス提供において関わりを持つ人(利用者・家族、他職種等)の心理や状況に応じて適切な意思疎通を行うことができる。	コミュニケーションの基礎	コミュニケーションの意義、言語的コミュニケーション、非言語的コミュニケーション、自己覚知、他者理解、信頼関係(ラポール)
			基本的なコミュニケーション技術	受容、傾聴、共感、支持、気づき、洞察、対人距離、ロールプレイング
			利用者・家族とのコミュニケーション	利用者の意向、家族の意向、意向の調整
			疾病・障害に応じたコミュニケーション技術	言語障害・視覚障害・聴覚障害・知的障害・精神障害・認知症等に応じたコミュニケーション技術
	②マナー・接遇	サービス提供において関わりを持つ人(利用者・家族、他職種等)からの信頼や満足度の向上につながる、適切なマナー・接遇を実践できる。	マナー・接遇に関する知識・技術	挨拶、身だしなみ、表情、態度、手紙・メール・電話等のマナー、言葉遣い・敬語、居宅訪問、企業訪問
			相談援助技術	相談援助の目的、ソーシャルワーク、ケースワーク、受容、個別化、自己決定、援助関係、バイステックの7つの原理
	③相談援助技術	福祉用具の選定をはじめとした利用者との関わりにおいて、利用者のニーズを引き出し、解決を援助できる。	相談援助の方法	説明と同意(インフォームド・コンセント)、気づきの促し
			相談面接技術	傾聴技法、観察技法、質問技法、うなずき、言い換え、要約、明確化、感情の反映
			スーパービジョンの基本	スーパーバイザーの役割、スーパーバイザーに求められる姿勢、実施形態(個別、ライブ、グループ、ピア)
	④指導・スーパーバイズ	効率的な業務運営や後進の福祉用具専門相談員に対する指導を行い、専門職としての成長を支援できる。	管理的スーパービジョン	意思決定、業務遂行、情報共有、組織内のコミュニケーション
			教育的スーパービジョン	能力開発、OJT、職業能力開発計画、評価手法、指導手順、事例検討、学習の動機づけ
			支持的スーパービジョン	自己覚知、自己実現、自己研鑽、リーダーシップ、バーンアウト防止

領域	科目	到達目標(行動目標)	含むべき事項(例)	(参考キーワード)
4. 福祉用具の選定と利用支援に関する領域	①福祉用具支援プロセス	各利用者のニーズに応じて、効果的な福祉用具支援のプロセスを考え、それを実践・評価できる。	福祉用具支援プロセスの意義	福祉用具支援に必要な思考過程、客観性、科学的な根拠、PDCAサイクル(計画、実施、評価、改善)の意義
			福祉用具支援プロセスの展開	情報収集・分析(アセスメント)、福祉用具の選定、福祉用具サービス計画書の作成、適合・使用方法の説明、モニタリング
	②利用者のニーズに応じた福祉用具選定の視点	情報収集・分析に基づいて利用者のニーズを明らかにし、心身状況・家屋環境に適した福祉用具を選定できる。	情報収集・分析(アセスメント)の考え方	生活目標、生活上の課題、観察技法、アセスメント項目(身体・健康状況、ADL/IADL、介護状況、家屋環境、生活パターン、経済状況)、ニーズの明確化、背景・要因の分析
			種目・機種選定の考え方	支援方法の種類(福祉用具貸与、福祉用具購入、住宅改修、介護保険外サービス利用)、行為全体の流れを考えた動作方法・用具選択・環境整備、使用目的の明確化(自立支援、介護負担の軽減)
	③福祉用具サービス計画書の作成	利用者のニーズに基づいて、福祉用具の使用目的と手順を想定し、福祉用具サービス計画書を作成できる。	福祉用具サービス計画書の意義と作成方法	ケアプランと福祉用具サービス計画書の関係、福祉用具利用目標、記録の意義・目的、エビデンス、専門用語の言い換え
			福祉用具サービス計画書の運用方法	利用者・家族への説明、介護支援専門員や他職種との情報共有、事故防止・対策
	④多職種との連携	多職種間でのケアの目標の共有、円滑な役割分担・情報共有に基づいて、自らの役割を遂行できる。	チームアプローチの考え方	チームアプローチ、チームケア、介護に関わる職種の種類と役割、非医行為、地域包括支援センター、情報共有、信頼関係
			具体的な連携方法	ケースカンファレンス、サービス担当者会議、報告・連絡・相談の方法と留意点
	⑤モニタリングの視点	福祉用具サービス計画書に基づいた福祉用具の利用状況の確認を通じて、利用者の変化を把握することができる。	モニタリングの意義	利用者と福祉用具のマッチング、変化の把握、目標達成の検証、信頼関係の構築、事故防止
			モニタリングの実施方法	利用者の変化(身体状況、生活状況、気持ち、家族状況)の確認、モニタリングの記録(モニタリングシートの作成)、介護支援専門員への報告
	⑥福祉用具の整備技術	福祉用具を安全で利用者に適合した最良の状態を使い続けるための点検・メンテナンス、消毒を行える。	点検・メンテナンス	構造、部品の種類、部品交換、点検・調整方法、工具・計測機器の使用法、不具合事例
			消毒	消毒の意義、理学的殺菌(熱、紫外線等)、科学的殺菌(酸化エチレン、ホルムアルデヒド等)、消毒済み福祉用具の保管方法、作業従事者の安全管理
	⑦安全の確保と事故防止	福祉用具支援において想定されるリスクをあらかじめ予測し、事故の予防、発生時の迅速な対応に向けた体制を構築できる。	事故対応・事故予防	リスクの種類(事故、ひやりはっと、故障、苦情)、発生要因、事故対応の流れ、消費生活用製品安全法、重大製品事故、損害賠償責任、製造物責任法(PL法)
			苦情処理対応	苦情の種類、苦情の影響、苦情処理の視点、対応方法、業務改善
5. 個別福祉用具の知識・技術に関する領域	①起居関連用具に関する知識・技術	起居動作(起き上がる、座る等)を楽に安全に行うための寝具・補助用具の特徴を理解し、生活動線の確保や快適な室内環境の維持に資する用具の選定・適合ができる。	起居関連用具の特徴	起居関連用具(特殊寝台、立ち上がり補助器等)の機能、構造、種類
			起居関連用具に関する選定・適合技術	起居動作(起き上がる、座る、立ち上がる等)、水平感覚、生活動線、麻痺側、方角、起居の介助方法(脚上げ、背上げ、寝返り)、落下防止
			起居関連用具の整備・使用方法	起居関連用具の組み立て・整備・使用方法、利用上の留意点
	②移乗関連用具に関する知識・技術	移乗動作(乗り移り)を楽に安全に行うための移動用リフト・体位変換器等の特徴を理解し、利用者や介助者の身体的負担の軽減に資する用具の選定・適合ができる。	移乗関連用具の特徴	移乗関連用具(移動用リフト、体位変換器、移乗ボード等)の機能、構造、種類
			移乗関連用具に関する選定・適合技術	移乗動作(ベッドから車いすに移る等)、移乗環境、高低差、座面高、座位保持、吊り具、姿勢調整、腰痛防止
			移乗関連用具の整備・使用方法	移乗関連用具の組み立て・整備・使用方法、利用上の留意点
	③移動関連用具に関する知識・技術	移動動作(歩く、階段を上がる等)を楽に安全に行うための車いす・歩行器・手すり等の特徴を理解し、生活動線や外出機会の確保に資する用具の選定・適合ができる。	移動関連用具の特徴	移動関連用具(車いす、歩行器、手すり等)の機能、構造、種類
			移動関連用具に関する選定・適合技術	移動動作(歩く、階段を上がる、段差をこえる等)、車いす座位、体圧分散、生活動線、麻痺側、歩行姿勢、介助方法(車いす移乗)、姿勢保持
			移動関連用具の整備・使用方法	移動関連用具の組み立て・整備・使用方法、利用上の留意点
	④床ずれ防止関連用具に関する知識・技術	床ずれ(褥瘡)の発生を防ぐための体圧分散寝具等の特徴を理解し、生活意欲の向上に資する用具の選定・適合ができる。	床ずれ防止関連用具の特徴	床ずれ防止関連用具(体圧分散寝具等)の機能、構造、種類
			床ずれ防止関連用具に関する選定・適合技術	床ずれ(褥瘡)、発生要因、全身管理、局所管理、体圧分散、体圧管理、体位管理、姿勢保持、ポジショニング
			床ずれ防止関連用具の整備・使用方法	床ずれ防止関連用具の組み立て・整備・使用方法、利用上の留意点
	⑤排泄関連用具に関する知識・技術	排泄動作や排泄障害に対応する排泄用具の特徴を理解し、尊厳保持や衛生保持、介助者の負担軽減に資する用具の選定・適合ができる。	排泄関連用具の特徴	排泄関連用具(腰掛便座、特殊尿器等)の機能、構造、種類
			排泄関連用具に関する選定・適合技術	排泄動作(トイレに移動する、下着をおろす、後始末をする等)、排泄障害、便・尿意、昼夜の違い、生活習慣、廃用症候群の予防
			排泄関連用具の整備・使用方法	排泄関連用具の組み立て・整備・使用方法、利用上の留意点
	⑥入浴関連用具に関する知識・技術	入浴動作を楽に安全に行うための入浴補助道具等の特徴を理解し、安全で快適な入浴機会の確保に資する用具の選定・適合ができる。	入浴関連用具の特徴	入浴関連用具の特徴の機能、構造、種類
			入浴関連用具に関する選定・適合技術	入浴動作(服を脱ぐ、身体を洗う、浴槽をまたぐ等)、脱衣所と浴室の温度差、段差解消
			入浴関連用具の整備・使用方法	入浴関連用具の組み立て・整備・使用方法、利用上の留意点
	⑦食事・更衣・整容関連用具に関する知識・技術	食事・更衣・整容関連用具の特徴を理解し、生活文化・習慣に根差した活動を促す用具の選定・適合ができる。	食事・更衣・整容関連用具の特徴	食事・更衣・整容関連用具(食器、衣服、歯ブラシ等)の機能、構造、種類
			食事・更衣・整容関連用具に関する選定・適合技術	食事動作(調理する、切り分ける、食べる等)、更衣動作(固定する、整える等)、整容動作(姿勢の保持、関節運動等)、自助具
			食事・更衣・整容関連用具の整備・使用方法	食事・更衣・整容関連用具の組み立て・整備・使用方法、利用上の留意点
	⑧コミュニケーション・社会参加関連用具に関する知識・技術	コミュニケーション・社会参加関連用具の特徴を理解し、障害に応じたコミュニケーション・社会参加を促す用具の選定・適合ができる。	コミュニケーション・社会参加関連用具の特徴	コミュニケーション・社会参加関連用具(点字関係、パソコン関係、補聴器、環境制御装置等)の機能、構造、種類
			コミュニケーション・社会参加関連用具に関する選定・適合技術	触覚の活用、点字、聴覚の活用
			コミュニケーション・社会参加関連用具の整備・使用方法	コミュニケーション・社会参加関連用具の組み立て・整備・使用方法、利用上の留意点
⑨その他の福祉用具に関する知識・技術	上記以外の福祉用具の特徴を理解し、対象とする動作・介助の負担軽減等に資する用具の利用を支援できる。	その他の福祉用具の特徴	その他の福祉用具の機能、構造、種類	
		その他の福祉用具に関する選定・適合技術	福祉用具が対象とする動作と介助方法、接触する身体部位	
		その他の福祉用具の整備・使用方法	その他の福祉用具の組み立て・整備・使用方法、利用上の留意点	